



纏向遺跡に見学者用トイレを建設しました

桜井市では、纏向遺跡を訪れるみなさまにご利用いただくことを主な目的に、見学者用トイレを新設しました。

今回設置したトイレはJR桜井線巻向駅の南西側、プラットフォームから線路を挟んで徒歩1分の立地にあり、史跡 纏向遺跡の太田地区に隣接しています。

桜井市の名産である木材を多く活用し、木のぬくもりと清潔感のある内装・外観となっています。さらに、曲線を用いた外観は一見トイレには見えないようなおしゃれなデザインとなっています。また、多機能型のトイレも併設していますので、多くの皆様に安心してご利用いただける構造です。

なお、利用可能時間は午前9時から午後5時までとなっております。駅に近く、箸墓古墳からは徒歩約15分、纏向石塚古墳からは徒歩約10分と、纏向遺跡のほぼ中央に立地しておりますので纏向遺跡を訪れる際にはぜひご利用ください。

纏向考古学通信第9号でお伝えしたように、現在桜井市では『史跡 纏向遺跡・纏向古墳群保存活用計画書』を刊行し、纏向遺跡の整備を進めています。今号でご報告したトイレの新設もその一環であり、今後は今号で報告したトイレに近接して遺跡のガイダンス機能と地域のみなさまの交流機能を備えた学習拠点を設け、纏向遺跡を訪れる皆様により一層遺跡に親しんでいただけるよう整備を進めたいと考えています。



写真1 景観にとけこむ外観



写真2 木材を多く用いた外装



《纏向遺跡第189次調査の成果》

1. はじめに

第189次調査は、纏向遺跡の北辺に近い場所
所で調査をおこないました。周辺では、調
査地から北に約100mの場所でおこなわれた
纏向遺跡第71次調査で、古墳時代前期の方
形周溝墓や6世紀ごろの掘立柱建物が検出
されるなど、良好な遺構が検出されている
ため、今回の調査でも古墳時代前期の遺構・
遺物の検出が期待されました。

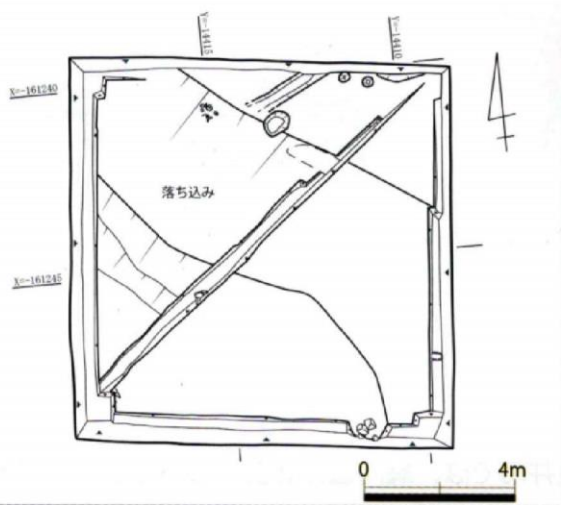


図1 調査区平面図 (S=1/200)

2. 調査成果

調査の結果、調査区の半分以上を占める落ち込みを検出しました。この落ち込みは、堆積していた埋土の状況から流水していたと考えられます。落ち込みは、下層の埋土から古墳時代前期の土器が出土し、上層からは平安時代ごろの土器が出土しました。また中層の堆積からは古墳時代後期須恵器の高坏4点と脚付有蓋壺の蓋1点がまとまって出土しました。なお、時期は不明ですが多くの鉄滓や鞆羽口片が出土しています。

今回の調査では古墳時代前期の遺構を確認することはできませんでした。調査地は、復元されている古地形の纏向川河道1（辻河道）上に位置しており、検出した落ち込みは纏向川の旧河道である可能性が考えられます。

調査地から西に約250mのところでおこなわれた第72次調査で「宮内」と書かれた墨書土器や漆塗りの須恵器鉢などが見つかっており、周辺には階層の高い人々が存在していた可能性が指摘されています。今回の調査では奈良三彩片など一般の集落ではあまり見られない土器が出土しており、古代の官道である上ツ道に近接していることも含めて、この土地周辺が階層の高い人々が暮らしていた地域である可能性が高まりました。また、鉄滓が多く出土し鞆羽口も出土していることから、周辺に鍛冶工房などが存在していた可能性も考えられます。 (三沢朋未)



写真3 調査区全景 (北から)



写真4 落ち込み土器出土状況 (南西から)

《纏向遺跡第190次調査 茶ノ木塚古墳第1次調査》

1. はじめに

纏向遺跡の南端部にあたる桜井市大字箸中には、箸墓古墳やホケノ山古墳などの著名な古墳が存在しており、市内でも古墳が多いところとして知られています。付近を歩くと、田畑の中に小さな高まりとして残るいくつかの古墳を観察できますが、実はこれらの古墳は未調査のものが多く、その半数以上は墳丘の形や規模、築造時期がわかっていません。ホケノ山古墳のすぐ北側に位置する茶ノ木塚古墳もまた、そうした古墳の一つでした。



写真5 茶ノ木塚古墳（手前）と三輪山

2. 調査の成果

茶ノ木塚古墳における初の発掘調査である第190次調査は、2017年2月に、墳丘の北西側で実施されました。その結果、現存する高まりから8m余り離れた位置で墳丘の端が確認されました。これにより本来の墳丘規模は、現状よりもかなり大きく、30m前後かそれ以上と考えられるようになりました。このほか葺石や埴輪の存在も初めて明らかになりました。埴輪は円筒埴輪や蓋形埴輪きぬがさが確認されており、その特徴から茶ノ木塚古墳は5世紀後半頃に築造されたことが判明しました。



写真6 調査区の全景（北西より）

3. まとめ

纏向遺跡では古墳出現期である3世紀代の大型古墳の存在が注目されますが、いっぽうで5世紀後半以降の中小規模墳が多く築造されていることがわかりつつあります。これらの古墳は大規模集落が衰退したのちの纏向遺跡を考える上で重要な意味を持つものであり、茶ノ木塚古墳はその新資料として加えられることとなりました。今回の調査はきわめて小規模なものでしたが、茶ノ木塚古墳の一端を捉えることができました。今後のさらなる調査により、古墳の全体像が明らかになることが期待されます。

(福辻 淳)

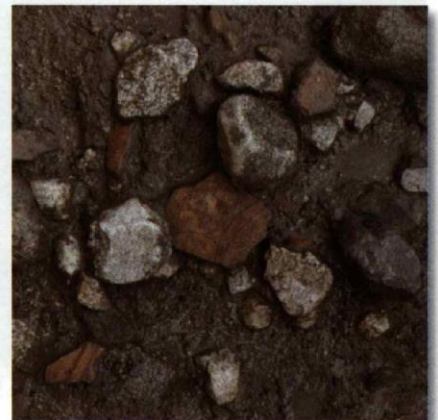


写真7 葺石石材と埴輪



《纏向遺跡第192次調査 坂田地区隣接地の調査》

1. はじめに

第192次調査は纏向遺跡の東より、大字箸中・巻野内に広がる纏向古墳群の北側で調査をおこないません。周辺では纏向遺跡第42次調査（坂田地区）がおこなわれており、古墳時代前期の落ち込みから鶏形埴輪や冠帽形埴輪、朝顔形埴輪が出土しています。今回の調査地は第42次調査地に隣接していることから、埴輪が出土した落ち込みの延長を確認することが期待されました。また、第42次調査では明確にすることができなかった古墳の有無についても、新たな知見が得られることが期待されました。

2. 調査の成果

調査の結果、第42次調査で検出された落ち込みの延長を確認することはできませんでした。しかし、落ち込みとは別に古墳時代前期の遺構を多数検出することができました。検出した遺構からは、吉備系や東海系などの外来系土器が出土しています。土器以外にも、古墳時代前期の埴輪が出土しました。遺構からの出土ではありませんが、第42次調査で出土している冠帽形埴輪と同一個体であると考えられる鋸歯文の線刻が施された埴輪片や鶏形埴輪の尾の破片などが出土しています。今回の調査で出土した埴輪は、遺構からではなく遺構を検出した層の上層に堆積している包含層から多く出土しています。近隣では、第167次調査で見つかった掘立柱建物から瓦が出土しており、その建物もしくは周辺に奈良時代から平安時代の寺院が存在していた可能性が指摘されています。



写真10 土器出土状況（東から）



写真8 遺構検出状況（北から）



写真9 土器と埴輪出土状況（北から）

このことから、調査地周辺はこの寺院などを造る際に大規模な整地がおこなわれた可能性が考えられます。その時に、周辺にあった古墳が壊され、樹立していた埴輪が包含層内に混在したという可能性が考えられます。いずれにせよ、今回の調査では周辺に確実に古墳が存在していたと断言できる資料を提示することはできませんでした。今後、周辺の調査が進むことによって、明らかになることを期待したいと思います。

（三沢）





図2 調査地・トイレの位置

〈平成28年度纏向学研究センター研究集会を開催しました！〉

2017年2月18・19日に纏向学研究センター定例研究集会を行いました。

1日目は（公財）徳島県埋蔵文化財センターの近藤玲氏より「纏向遺跡炭素14年代測定結果と、四国東部における灌漑水田受容期の年代についてー炭素14年代を用いた地域事例ー」と題してご報告をいただき、それに関して共同研究員の奥山誠義氏よりコメント発表をいただきました。続いて元大分県立歴史博物館の高橋徹氏より「邪馬台国と鏡」と題したご発表をいただきました。

2日目は午前中に森暢郎所員より「装飾塚からみた6世紀末から7世紀初頭の須恵器編年」、共同研究員の小山田宏一氏より「前方後円墳の築造と葬送儀礼の工程」と題したご発表がありました。昼休憩を挟んで午後からは大阪経済法科大学の前田晴人氏より「物部氏関係伝承の再検討」と題したご発表をいただきました。

各発表では様々な意見が交換されました。



写真11 発表する高橋氏



写真12 質問に答える小山田氏

《纏向学研究センター紀要『纏向学研究』第5号刊行！》

桜井市纏向学研究センターではセンターで行われた研究の成果を広く学界や社会に発信するために研究紀要を刊行しています。

第5号となる本号には、前田晴人氏「物部氏関係伝承の再検討」、高橋徹氏「赤塚古墳と出土中国鏡について」、寺沢知子氏「古墳の属性と政権動向—4世紀前半期を中心に—」、浦西勉氏「纏向・穴師郷の民俗宗教文化の研究覚え書き（1）—江戸時代の穴師坐兵主神社と神宮寺の関係—」、柳田康雄氏「福岡県筑前町東小田中原遺跡の石硯」の論考・報告を掲載しております。

本号では前頁でご紹介した纏向学研究センター定例研究集会での報告・発表を踏まえた様々な論考を掲載することができました。なお、(公財)桜井市文化財協会（桜井市芝58-2 市立埋蔵文化財センター内 TEL 0744-42-6005）にて頒布していますので、ご興味のある方はお買い求めください。



《纏向学研究センターホームページで資料がダウンロードできます！》

桜井市纏向学研究センターホームページ (<http://www.makimukugaku.jp>) では、過去に刊行した書籍や、これまでの纏向考古学通信について、広く皆様にご活用いただくために無料でPDFファイルとして公開、ダウンロード可能にしています。

元々発行部数が少ない発掘調査報告書や研究紀要『纏向学研究』など、すでに頒布終了となってしまった書籍も多く公開しておりますので、ぜひご覧ください。

公開している書籍（平成29年7月31日時点）

纏向学研究センター研究紀要『纏向学研究』1～4号

『茅原大墓古墳 第1次～第6次発掘調査報告』

『奈良県桜井市 纏向遺跡発掘調査概要報告書』

『史跡 纏向石塚古墳発掘調査報告書』

『纏向遺跡発掘調査報告書

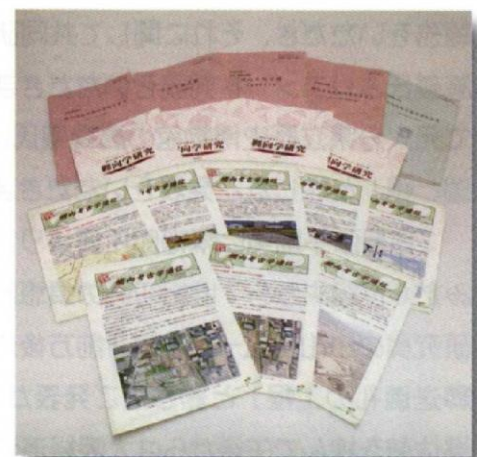
—巻野内坂田地区における調査報告—』

『纏向遺跡発掘調査報告書2

—メクリ地区における古墳時代前期墳墓群の調査—』

『史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群 保存活用計画書』

など



《第8回纏向学セミナー「卑弥呼の鬼道と壺形墳の誕生」を開催しました！》



写真 13 講演される辰巳先生



写真 14 対談風景

第8回纏向学セミナーは、2017年1月21日に桜井市立図書館にて、元同志社大学教授の辰巳和弘先生を講師に迎え、標記の題で開催しました。

辰巳先生の講演では、まず魏志倭人伝に記載のある「鬼道」がいかなるものであったのか、さまざまな文献にある鬼道や鬼神の記事を読み解くとともに、弥生時代の各地の遺跡に鬼神祭祀と関連が想定される様々な遺構や遺物があることを指摘されました。また、唐古・鍵遺跡の褐鉄鉢容器などから、弥生時代には既に中国の神仙思想が日本列島に流入していたことを論じられました。

そのうえで、辰巳先生は中国における壺と神仙思想、葬送の密接なかわりを紹介され、古墳時代に特徴的な鍵穴形の墳墓「前方後円墳」も神仙思想を受容する中で壺の形を表象したものとする説を提示されました。

辰巳先生と寺沢所長との対談では、大学生時代の先輩・後輩関係の二人が当時の調査や研究状況を振り返るところから始まり、卑弥呼の鬼道の実態や前方後円墳の形の意味をめぐって、白熱した議論が交わされました。

お越しいただきましたみなさま、ありがとうございました。なお平成29年度も纏向学セミナーは夏と冬に予定しております。纏向学研究センターホームページやチラシなどで広報いたしますので、是非お越しください。

コラム はるばる海を越えた土器

ここでご紹介する陶質土器は、通信第7号でご報告した纏向遺跡第180次調査で出土したものです。既に纏向学研究センター年報第4号にて報告していますが、改めて紹介したいと思います。

この土器は小さなピット（穴）から出土したもので、耳のような把手がつく両耳壺の破片であると考えられます。灰色に硬く焼かれています。一見須恵器に見えますが、形状や焼成からみて4世紀に朝鮮半島慶尚道地域で作られた土器と考えられます。

これまでに纏向遺跡では朝鮮半島からもたらされたと思われる土器が複数出土していますが、また一つ類例を加えることになりました。

(森暢郎)



写真 15 陶質土器
両耳壺

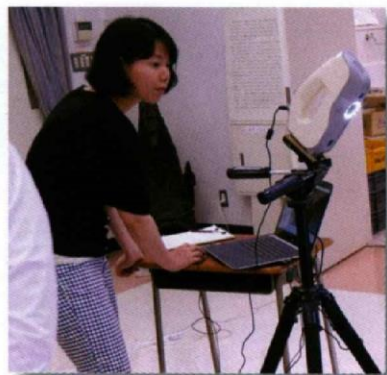


《纏向遺跡を掘る調査員たち 10》

桜井市の調査員紹介コーナーです。今回は中屋菜緒さんです。

はじめまして、中屋です。平成29年4月から臨時職員として働かせていただくことになりました。和歌山市出身で、大学進学とともに奈良の地にきました。私が文化財や歴史に興味を持ったのは、小学校の頃に卑弥呼の漫画版伝記を読んだことがきっかけなので、ここ桜井市で働けることにとってもわくわくしています。

学生時代は、文化財の三次元計測や3Dデータの活用方法を研究しており、考古学に関してはほとんど初心者です。これから考古学をしっかりと学んでいきたいと思いますのでご指導よろしくお願いたします。最近、3Dデータの活用方法として文化財教育・普及活動への活用を研究テーマとしているので、纏向遺跡においても貢献できるようにがんばりたいです。



埋蔵文化財センター展示収蔵室からのお知らせ

埋蔵文化財センター展示収蔵室では、平成29年10月1日（日）までの期間、桜井市立埋蔵文化財センター平成29年度速報展『50cm下の桜井 23』として、纏向遺跡をはじめ市内各地で平成28年度におこなった発掘調査についての展示をおこなっています。ぜひご覧ください。

展示開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで) 休館日 毎週月・火曜日及び祝日の翌日
入館料 / 大人200円 小・中学生 / 100円 20名以上の団体は大人150円 小・中学生50円



刊行物のご案内

- ☆纏向学研究センター紀要「纏向学研究」第4号 1000円 残部僅少 「纏向学研究」第5号 800円
 - ☆ガイドマップ『纏向遺跡へ行こう!』200円 (2014年3月改訂第5版)
 - ☆桜井市制施行60周年記念特別展示
「拓かれた扉～桜井の郷土史研究はいかにして始まったか～」300円
 - ☆桜井市制施行60周年記念プロジェクト
シンポジウム『国家誕生の地、桜井を語る』発表要旨集 500円
- ※ご購入方法は 桜井市立埋蔵文化財センター内 (公財)桜井市文化財協会までお問い合わせください。
お問い合わせ先 TEL 0744-42-6005 FAX 0744-42-1366
<http://www.sakurai-maibun.nara.jp/>

編集後記

今号では、史跡 纏向遺跡隣接地に新設しました見学者用トイレについてお伝えしました。また、最新の調査についてもその成果をご報告しました。今後も皆様に纏向遺跡に訪れていただけるよう、整備と発信に努めたいと思います。

(M)

纏向考古学通信 Vol.11

発行 平成29年7月31日
編集 桜井市纏向学研究センター
〒633-0085 奈良県桜井市東田339
TEL 0744-45-0590
FAX 0744-45-0590
ホームページ 纏向学研究センターで検索!

